

愛媛県加茂川におけるトリウミアカイソモドキの記録

鎗田めぐ¹・山川宇宙²・野口大介³・山本貴仁³・清水孝昭⁴

¹ 広島大学大学院統合生命科学研究科

² 筑波大学大学院生命環境科学研究科生物科学専攻

³ 西条自然学校

⁴ 愛媛県農林水産研究所水産研究センター



写真1 *Sestrostoma toriumii* トリウミアカイソモドキ (TKPM-AR 3130)

種の記録

Varunidae モクズガニ科

Sestrostoma toriumii (Takeda, 1974)

トリウミアカイソモドキ (写真1)

標本 徳島県立博物館節足動物標本 (TKPM-AR) 3130–3132, 3 個体, 甲長 2.7–3.7 mm, 甲幅 2.9–4.3 mm, 加茂川河口域 (愛媛県西条市禎瑞: 北緯 33 度 55 分 03 秒, 東経 133 度 09 分 00 秒), 2023 年 2 月 4 日, 手網, 山川宇宙・鎗田めぐ採集。

種の特徴

上記 3 個体は, 甲が丸みを帯びた四角形で, 表面が平滑であること, 鉗脚指部内縁に歯が並んでいること, 甲および鉗脚, 歩脚に斑紋が入ること, 歩脚は比較的細く先端が鋭いことが, Takeda (1974) や三浦 (2008) のトリウミアカイソモドキの標徴と一致したため, 本種に同定された。

備考

本種は日本において青森県の大湊湾から八重山諸島の西表島にかけて分布するが, 瀬戸内海以外の地域では個体群密度が低い (伊谷, 2012)。愛媛県内では大洲市肱川河口域, 松山市堀江海岸および西条市加茂川河口域から記録されており, 特に加茂川河口域からは複数回にわたって記録されている (Sakai, 2000; 武田ほか, 2000; 山根・山本, 2000)。また, 2019 年に行われた加茂川河口生きもの調査においても本種が得られており (山本, 未発表), 同川で本種

は比較的普通種と思われる。本種は砂泥質干潟に生息するアナジャコ科甲殻類などの巣穴内に共生しており (伊谷, 2012), 良質な干潟環境を示す生物と考えられ, 本種が継続的に生息することは, 加茂川河口環境の良質性を担保するものといえる。西条市では加茂川河口干潟と海浜を重点保全地域とし, 本種を重点保全種に含めており (西条市ホームページ, <https://www.city.saijo.ehime.jp/soshiki/kankyoseibustutayouseikeikaku.html>, 2023 年 4 月 1 日参照), その継続的な生息実態把握は重要と考えられることから, 最も近年の確認記録として, 登録標本に基づき報告した。

引用文献

- 伊谷 行. 2012. トリウミアカイソモドキ. 日本ベントス学会 (編), 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック. 東海大学出版会, 秦野. 205.
- 三浦知之. 2008. 干潟の生き物図鑑. 南方新社, 鹿児島. 197pp.
- Sakai K. 2000. On the occurrence of three species of crabs on Shikoku Island, Japan, and a new species, *Pinnotheres taichungae* nov. spec., from Taiwan (Decapoda, Brachyura). *Crustaceana*, 73(9): 1155–1162.
- Takeda M. 1974. Accounts of some rare crabs from Mutsu Bay, with some description of a new grapsid from Onagawa Bay. *Bulletin of the Marine Biological Station of Asamushi*, 15(1): 13–21.
- 武田正倫・酒井勝司・篠宮幸子・須賀秀夫. 2000. 瀬戸内海産カニ類. 国立科学博物館専報, 33: 135–144.
- 山根勝枝・山本貴仁. 2000. 愛媛県加茂川河口域の底棲動物群集. 愛媛県総合科学博物館研究報告, 5: 11–23

(2023 年 4 月 14 日受付, 2023 年 4 月 15 日公開)

連絡先: 鎗田めぐ (e-mail: megyaritafrog@gmail.com)

(Meg Yarita, Uchu Yamakawa, Daisuke Noguchi, Takahito Yamamoto and Takaaki Shimizu. 2023. Record of *Sestrostoma toriumii* (Varunidae) from the Kamo River in Ehime Prefecture. NS Fieldnote, 23010)